13 高知大学医学部付属病院泌尿器科における十全大補湯の使用経験

高知大学医学部泌尿器科[1)]、高知大学医学部薬理学講座[2)]

辛島　尚[1)]、山本 新九郎[1)]、田村　賢司[1)]、蘆田　真吾[1)]
井上　啓史[1)]、齊藤　源顕[2)]

【目的】十全大補湯は病後の疲労倦怠, 食欲不振, 貧血に処方される漢方薬の一つであるが、悪性腫瘍に対する薬物療法の有害事象軽減目的に使用されることがしばしばある。当科において十全大補湯の使用経験について検討した。

【対象と方法】2014年1月から2022年12月までに、高知大学医学部附属病院泌尿器科で十全大補湯を処方された症例を対象に、臨床情報を診療録より後方視的に検討した。

【結果】観察期間内に漢方薬が処方された患者総数/薬種は774件/44種であった。十全大補湯の処方数は11位であり、16症例に処方されていた。男性10例、女性6例、年齢中央値68(44-82)歳、処方日数中央値15(5-702)日であった。全症例が悪性腫瘍であり、尿路上皮癌12例、前立腺癌3例、前立腺小細胞癌1例であった。13例は抗癌剤による疲労と食欲不振の軽減目的に使用され、うち7例は癌死した。

【考察】十全大補湯の処方は、泌尿器癌に対する抗癌剤の有害事象軽減が主な目的であった。特定の医師による処方が中心であり、複数の漢方薬の同時処方が目立った。

【結語】当科における十全大補湯の使用経験を報告する。